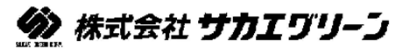
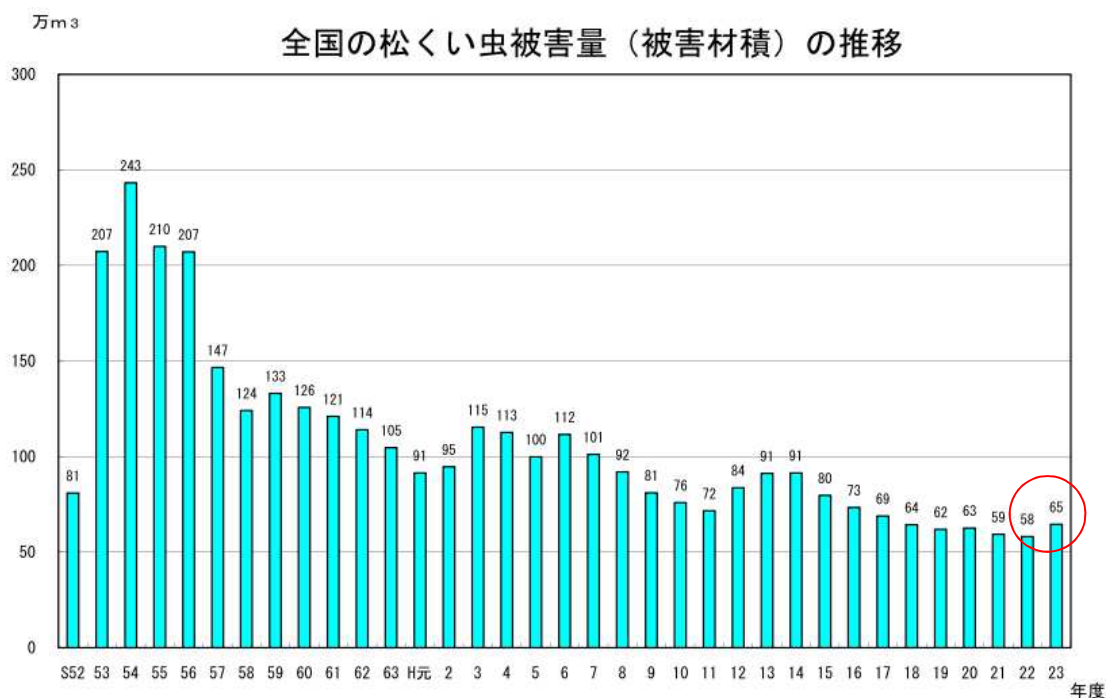


お客様各位



平成23年度の松くい虫被害状況について

松くい虫被害（マツ材線虫病）の被害状況は、例年8月に前年度分が林野庁により取りまとめられ、発表されています。平成24年8月31日に発表されたデータによると、平成23年度の松くい虫被害量（被害材積）は前年度から約60,000m³増の約650,000m³でした。ピークである昭和54年度の約1/4量にまで減少していますが、被害の発生地域は2年ぶりに青森県での発生が確認され、北海道を除く46都府県に及んでいます。



平成24年度の被害状況を見ていますと、平成23年度よりもさらに被害が拡大しているように見受けられます。大切な松を守るためにも、この冬の予防対策が重要です。

クロマツ、アカマツなどの日本の松は、材線虫病への抵抗性が低く、マツノザイセンチュウが侵入してしまうと、もう手の施しようがないといっても過言ではありません。松枯れ被害が拡大するのを防ぐため、健全な松には樹幹注入剤の施工をお勧めいたします。

樹幹注入剤は各種メーカーから販売されていますが、効果持続期間は3～7年※です（※別紙参照）ので、以前施工された方も改めて前回の施工時期を確認し、再予防する必要があるかどうかチェックされることをお勧めいたします。メーカー提供の「グリーンガード樹体内濃度検査サービス」もあります。その他、松枯れ調査や防除方法など、お気軽にお問合せください。

◆商品案内◆



グリーンガード・NEO（酒石酸モランテル剤）90ml/本

- 防除効果が高く、また安全性も高い「グリーンガード」シリーズは、松枯れ予防剤の中でもトップシェアを誇っています。
- 樹体に直接注入するので、ドリフトなどの心配がありません。
- 一度施工すると予防効果は7年間※持続します（※2011年持続期間延長）。
- 従来品「グリーンガード」「グリーンガード・エイト」よりもコンパクトで、また寒冷地でも問題なく施工でき、薬効の持続期間も長くなりました。

メーカー希望価格：2,600円/本